

# 本棚 ぶらり

## テーマ サッカー



### 『サムライブルーの料理人 サッカー日本代表専属シェフの戦い』

にしよしてる  
西芳照／著  
白水社 2011年



今やサッカー日本代表チームに欠かせない専属シェフとなった西芳照氏。本書では、2004年のワールドカップドイツ大会予選から、2010年の南アフリカ大会までの海外遠征帯同の経験を綴っている。印象的なのが、選手の目の前で肉やパスタを調理する「ライブクッキング」。食事とは単なる栄養補給ではなく、選手に喜んでもらうことが大切だという考えから始めたもので、選手の楽しみとなり、また著者と選手の交流の場ともなった。このような選手の体力と気力を養うための工夫が多く記されている。日本代表の一員として力を尽くす著者の真摯な姿勢と、選手への献身的なサポートには感服するばかりである。たびたび触れられる食の好みやオフの過ごし方など当時の選手たちの素顔には、ほっこりさせられる。

### 『蹴日本紀行 47都道府県フットボールのある風景』

うつのみや てついち  
宇都宮徹彦／著  
エクスナレッジ 2021年



北は北海道から南は沖縄まで、著者がサッカーを求めて訪ね歩いた旅。本書には、全国のスタジアムや各都道府県を象徴する風景の写真が随所に散りばめられている。それらは写真家としても活動している著者が撮影したもの。どれも躍動感があり、その土地の空気感を感じることでできる美しいものばかりである。各クラブのマスコットの紹介もあり、V.ファーレン長崎のヴィヴィくんは、あざといキャラクターでファンの心を鷲掴みにしたなどの微笑ましいエピソードも盛り込まれている。サッカーファンが楽しむことのできる情報が盛りだくさんなのはもちろん、グルメや観光などのご当地情報も豊富で、各地の魅力を再発見できる一冊である。

### 『ディス・イズ・ザ・デイ』

つむらきくこ  
津村記久子／著  
朝日新聞出版 2018年



サッカーの2部リーグチームをめぐる、11の短編＋エピローグ。登場人物たちは皆、自分が愛するチームを応援している。その動機は消えた恋人を探して、一人の選手を追い続けて、文化交流の成り行きで…など人それぞれだ。サッカーを通じて変わる内面や築かれる人間関係、そこから拓かれる未来への展望が物語に描かれている。人はなぜこんなにも他者を熱狂的に応援することができるのか。「人々はそれぞれに、自分の生活の喜びも不安も頭の中には置きながら、それでも心を投げ出して他人の勝負の一瞬を自分の中に通す。それはかけがえのない時間だった。」という言葉が心に残る。

登場するのは架空のチームだが全国各地で試合をするので、読んでいて旅をしている気分にもなれる。

### 『うつ病とサッカー 元ドイツ代表 GK ロベルト・ エンケの隠された闘いの記録』

ロナルド・レング／著  
きむらひろつぐ  
木村浩嗣／訳  
ソル・メディア 2018年



2009年、32歳で自ら命を絶ったドイツのサッカー選手ロベルト・エンケの記録。彼と親交のあった著者が、彼の日記と関係者へのインタビューを元に綴る。エンケは将来を嘱望された優秀なGK(ゴールキーパー)だった。しかし、うつを発症し、「突然すべてが無意味で絶望的になる」恐怖を抱え始める。期待に応えなければならないというプレッシャー、失敗を許してもらえないのではという囚われ。そして、うつを知られてはならないという思いが一層彼を苦しめていた。

一見華やかに見えるプロサッカーという世界の中で、知らないうちに自分を追い詰めていたエンケ。社会の中でうつをどう考えればよいのか、苦しむ人とどう向き合えばよいのか、我々に問いかけているようである。



#### ちょこっとゆかり文学クイズ

Q: さいたま市ゆかりの歌人、大西民子は働きながら作歌活動を続けていました。旧大宮市に住んでいた頃の民子の職業は何でしょう？